

吹田一中 某年忘月

二〇回生 久保利也

三、四年前から吹田一中のはなしや、先生の噂が掲載されるようになって参りまして、とりわけ14号の木谷彰良さんの「母校を憶う」、同号の東谷勝司先生の「一中の校舎問題」、そして15号の寺澤美代子さんの「一中の創立と想い出」を読んで、わたしも中学のことならもう少し書けるかなと考えまして、同期の浅野氏に協力を申し入れたところ「申しわけないが、自分は中学は大阪中学、高校も大阪高校なんで吹田一中のことはほとんど何もわからない」との返信を貰いました。

早速この十年ばかりの総会出席者名簿を調べた結果、同期生は毎年5〜8名の出席者がいるにもかかわらず、千二小から地元の吹田一中へ進学した人は2〜3名しかいないことを知って驚きました。

木谷さんや寺澤さんが綿密に調べて、ていねいに書いてくださったものだと感銘しながら読みましたが、

実感として理解している方がごく少数であることが改めて判りました。

まさに行ったこともない学校や、会ったこともない先生のはなしなんか、ちいーつとも面白くないし興味も関心も抱けないのは当然でしょう。

しかし、わたしは中学時代が楽しかった。

良いも悪いも含めていろいろな面で人生の転換期でもあったなと回顧しております。貧しいながらも青春を存分に堪能した時代であると自覚しております。

改めて、寺澤さんと中野直衛さんに協力をお願いします。たところ、このおふたりをベースにしたネットで実によくさんの資料や写真や記念誌などをお借りすることが出来ました。

時代(時間)が違う、場所(土地)も違う、どこかの片隅の某年忘月、こんな生活、体験をしていた偶椀羅のひとりごととご理解ください。

せんせいのはなし

浅田先生、井上先生、上田先生、江戸川先生、大沢先生・・・会ったこともない先生のはなしはもういいよといわれそうですが、ごめんなさい、これはわたしが好

きな作家を五十音順に並べただけなのですが、きょうは中学時代に焦点を絞らなければならぬのでした。

タツ タツ タツ と元気なステップで教壇にあらると、その先生はあごを前に突き出すようなスタイルで生徒の方へ頭をさげると、すぐにうしろを向いてチヨークをつまみました。

そして黒板の右はし上の方に、さつま芋の絵を描きました。天地50センチぐらいで下ぶくれ、やや右に傾いた芋です。

「さーて、きょうはなあ、これじゃあ。」

と言いながら、さつま芋の下の左のはしっこから、くるくると蚊取り線香のようなうず巻きを描き、そのうず巻きの左のはしからこんどは下に向かって約50センチぐらい、頬のふくらみのような曲線を下へおろして、更に50センチぐらい左下へななめの線を書き終えると、チヨークを少し強く押し当てて白いポッチを残こして、一たん正面を向きました。

あまり背が高くない小柄な身体ですが、声はやたらにでかい。

今書き終えたポッチに、ていねいにちいさな丸じる

下車するんじや。」

「この終点まで営業キロ数は六七・八キロ、汽車賃は二十四円じや。」

「ここがわしの生まれて、育ったムギである。漢字で書くとこうじや。」

大きな字で、**牟岐**と

書いて、黒板の方にも丸じるしをつけました。

「あんまり知られていない所じやが、静かできれいな景色、そして海の水の色も大阪や神戸とはぜんぜんちがうて、海の底の石や岩がそのまま見えとるんじや。」

ここは、本来沿岸漁業と、遠洋漁業の基地で、カツオやマグロの一本釣り漁船の出入りが多くて栄えた漁港であるが、港を少し離れると、夏の深



しをつけて、更に50センチほど左下へおろして、ここで30度のかりがね点(返り点)として三角形の突端から左の方へ80センチぐらいの円弧を描きました。

「ここは、土佐湾じや。」

「したがって、この右側、つまり東側は紀伊水道であるから、和歌山県の対岸ということになる。」

「さて、このうず巻きは、兵庫県淡路島の南西端の門崎(とさき)と、徳島県の鳴門市大毛島の北東端、孫崎(まごさき)との海峡で、その距離は一・三キロ、瀬戸内海の播磨灘と紀伊水道の高低差が月、日時によって変わるんじやが、20キロぐらいの時速で、およそ40メートルぐらいのうず潮が、大きな音をたてて流れているのじや。」

「きょうの話は、世界的にも有名な鳴門海峡から南へ、四国の東側をいってみようということじや。」

「鳴門の南は四国で一番大きな街、徳島であることはみんなも知っていると思うが、この徳島から汽車に乗っておよそ2時間半、午前中は八時五三分発の一本だけじやが、夜までの三本はえらい時間がかかる。」

ゴトンゴトンと山や川、そして海を眺めたりしながら十一時半ごろ『ムギー、ムギー。』と声が聞こえたら

1966.3.22. 室戸阿南
海岸 Muroto-Anan
Kaigan (Coast)



室戸岬



鳴門の渦潮



阿南海岸の千羽海崖



鷺羽山

夜から早朝にかけて、遙かな太平洋から上ってくるアカウミガメが産卵をする浜辺があるんじや。」

「およそ10キロ南へいくと穴食(ししくい)町、ここを通り過ぎると、はや高知県である。」

「さらに20キロばかり南へいくと室戸岬じや。」

「この太平洋に突き出した岬は、百四〇キロ沖合を



香川県側からの瀬戸大橋 岡山県側からの瀬戸大橋



阿波踊り



大鳴門橋 明石海峡大橋



阿波十郎 兵衛



阿波踊り

流れる黒潮の影響で、温暖な風土であるが、いつも強い風が吹いているので海岸の樹木は上にあまり伸びないで枝が這うように、こもり丸くなっていくんだ。とべら（海桐花）の木、あこう（赤秀）の木など、亜熱帯性植物が群生している上に樫の木、姥女樫の木などが森となっているので、高級備長炭の生産地としても知られているんじゃない。」

「昭和20年頃に大阪や神戸を空襲した爆撃機が、みんなこのとんがり岬を目標に北上して来た時のことは、ラジオの防空情報を憶えている奴は想い出すじやろう。また関西や東海地方に上陸した大型台風も、この室戸岬を通過する奴は、みんな大きな被害を残していくので、台風の名前になっているのが多い。交通の便は、あんまり良いとは言えないが、みんな

も是非一度『牟岐』へ行ってみて欲しい。夜になって、わしが『イクドー』と叫びながら海岸を走っていくと、近隣のガキ達が、

『カメダー、カメダー』

と叫びながらついて走ってくるんじゃない。産卵を見にゆくんじゃない。」

この先生、亀田芳一、社会科の先生でした。

この某年と比較すると、日本中がすっかりさがわりました。現在ではこの四国の僻郷も鉄道路線が延伸され、牟岐が終着駅ではなくなつて室戸の近くまで20キロも開通したばかりでなく、列車数も、特急むろと一、二、三、五号、あなん一号など、一時間に一本以上のダイヤとなり、所要時間も徳島、牟岐を一時間少して走れるように変わりました。

船が唯一の運輸機関でしたが、次々に出来た瀬戸大橋、大鳴門橋、明石海峡大橋などの完成と共に、うず潮も、橋の上から、船上からまた海中からも見られる時代となりました。

いろいろな行事や催物のあとさきに必ずついてくるのが、ごあいさつであり、訓辞や連絡、注意説明等々実にたくさんのお話を聞かされて参りました。

しかしひとつも頭に残っていないものがないのは、忘れたのか、まじめに聞いていなかったのか、興味がなかったかということなのか、つまるところそれほど重要な内容でなかった、儀礼的なものであったと思われます。しかし、たったひとつだけ記憶に残っているものがあるのです。

この時代の社会情勢、生活環境と照合して勘案してみましたが、その意図されるところが未だに判らない、忘日の朝礼のはなしです。

吹田市立第一中学校一番上の校庭（グラウンド）が、うえ、なか、したと三つありました。に集められた千三百名ぐらゐの生徒に話された内容です。

アドリア海、即ちイタリアの西、バルカン半島北西部に位置する、ユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国のチトー大統領のはなしでした。

この某年はわが国も戦争が終つて四、五年目、まさに復興へ、殖産へと厳しい生活の内に平和を願つて夢中の生活だったと記憶しますが、同じようにその頃、

コミンフォルムを除名され、密かに祖国へ戻り着いた彼は、パルチザン部隊なる組織を編成したり、人民解放戦争を指導したり、きわめて困難な条件を克服して大統領の地位を築き上げ、六つの共和国と二自治州の二千四百万人の民族を統一した偉大なる人というのが主意であると考えますが、何故に中学生にこのことを詳しく説明されたのかというのが謎なのです。

しかしこのことが契機となって、ヨーロッパやアフリカ、中近東の革命や政変には敏感な目を養うようになったのは、ひとつの効用であったのかなと考えておられます。

このおはなしをされたのは、水島喜平校長先生でした。

郵便友の会

わが中学時代には、部活とか課外授業というものがなくて、ごく一部の優れた才能、主に音楽、美術、芸術、スポーツ等で秀でた人は学校対抗とか、地域選抜という形で遠征し、その実力を発揮していたようですが、わたくしは何ら特技も、才能もないために、た

だ好きなことを勝手にやっていたようなありさまです。その内で多少お話出来るのは、何でも集めようという趣味がありました。

特に切手とはがきは、将来値上りするぞというプレミアムを期待して、わずかなおこづかいをほとんど投入していましたが、振り返ってもあまりメリツトの無いままです。

しかし新しい切手が発行されるたびに諸々の情報を流してくれる郵便局の方々と親しくなってから、切手趣味週間の発行枚数や初日印蒐めに協力して貰ったりというささやかな特典を受けたこと、そして郵便業務の普及を応援する活動に少し力を注いだ実績で、吹田を代表する会合にも出席していました。

たまたまこの頃に名古屋で誕生した郵便友の会は、平和、友愛、教養という三つの信条を活動指針として発足しましたが、大阪では、吹田一中と関大第一高校三宅小学校ぐらいで、会員数も少なく、具体的な活動や交流よりも個人単位で文通希望者リストからピックアップして、文通をしていたのが実情です。

わたしの狙いは、沖繩がその頃まだ琉球という国で、貨幣も切手も外国と言う観念から近い将来琉球がなく

郵便はがき



郵便はがき



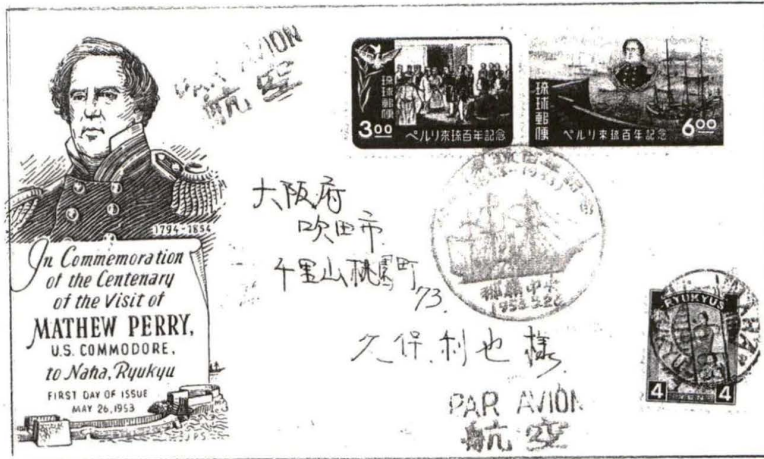
なって日本に併合されたならば、切手などは必ず値上りするぞという噂で、ペンフレンドは琉球つまり沖繩に集中して、日本切手と交換していました。

中学の文化祭の時には蒐集した切手をいろいろ工夫してパネルに貼って展示しながら、郵便友の会のポツプを拵えて勧誘に務めました。あまり効果なく興味も持たれないサークルコーナーでした。

切手趣味週間の時に出品したものが、大阪予選まで昇進したことがあります。

田沢切手
Tazawa Series





郵便友の会のペンフレンドと交換しあっていた琉球郵便の初日カバー (FDC)

新局舎新築落成記念

趣味の郵便切手展

期間 昭和28年9月25日—27日

会場 吹田郵便局新廳舎

主催 吹田郵便友の會
吹田郵便友の會
後援 大北阪郵政 局社



奥田陽一さんも「田澤型3銭切手の種類」という、ハイクラスコレクターの出品をしていました。自分の作品を仲間に説明していた時に、走り込んで来た友人が、

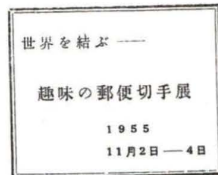
「おいおい、えらい奴がいるよ。」
「テレビをつくつとるんや。」
という声に全員が走って行きました。

昭和23年に東芝、27年に松下電器がテレビ受像実験をしている状態で、昭和28年の普及率は0・0二%、アメリカ製の21インチ白黒テレビが25万5千円。プロレスの力道山の登場が昭和26年で、庶民は街頭テレビに釘づけであった時代です。

ある教室で、大森信さんが小さなねじまわしでコンコンと机をたたきながら、ジャワジャワとノイズの流れるブラウン管と取り組んでいました。

このテレビづくりは昭和28年(1953年)にNHKがテレビ放送を開始する数年前の偉業でした。

「この小さな部品をどうしてそろえたのか。」とたずねましたら、



「そのたんびに、ニッポンバシまで買いにいくなすわ。」

「へえー? ニッポンバシまでー?」

「ほんまにえらいやつちやなあー。」

みんなの感嘆の音が印象的でした。

吹田一中 某年忘月 ひとまずおわり

補足説明を少しばかり

二十四回生 奥田 陽一

小生が20久保利也さんを知ったのは、吹田郵便局で毎月開かれた吹田郵趣会の席上でした。普通中三が幼なじみでもない限り、高三のお兄さんを友達呼ばわりすることはありませんが、「切手集め」という共通の趣味のお陰でおつきあい頂きました。今回はご寄稿の中で小生に関係ある部分について補足説明をするように依頼されましたので以下二点について書かせて頂きました。

一. 郵便友の会

小生が吹田一中三年生当時も活動はあまり盛んではありませんでした。顧問の武田先生が吹田郵便局であった、「趣味の郵便切手展」のこと、小生も出品していたことをご存じで、秋の文化祭に切手展をやるうと呼びかけられました。

小生が「切手集め」仲間四、五人に声をかけて、それぞれの収集品を持ち寄ることになり、花切手、国立公園切手、世界の大型の切手など見栄えのする作品が集まりました。小生も日本の記念切手(一)、二の高くて買えない切手を除く全種類、手彫切手(明治四年郵便



切手展会場写真 20中野直衛さん提供



後列中央は武田先生と浜口先生

女性陣は記念写真に花を添えるため武田先生が呼び集められました。後列のお二人は、後に宝塚に入られた山本栄美子(末広栄)さんと長谷川晴子(望千晴)さんです。

制度が始まって数年間使われた切手で、原板を手で彫ったので同じ切手でも相違点がある、高価でとても中学生が買える代物ではない、龍切手はその代表)を除く日本の普通切手を準備しました。一人が世界最初の切手であるイギリスのブラックペニーや、龍切手を含む沢山の手彫切手を持ってきたのには驚きました。

武田先生が吹田郵便局に頼んで沢山の郵便に関する展示パネルとガラスなどの展示用具を借りて下さり、一つの教室が展示物で溢れ、土・日二日間で沢山の方々に見て頂くことが出来て大成功でした。

泥棒に盗まれたら一大事なので、武田先生にご相談して土曜日の展示終了後、二重三重に厳重な戸締まりをしたのも思い出の一つです。

二. 田沢切手

大正2年から昭和13年まで使われた切手で、図案を公募し田沢昌言氏(印刷局職員)の作品が選ばれたので田沢切手と呼ばれています。25年という長期間発行され続けたので時代によりルーペなどで注意して見れば同じ額面の切手でも、明らかに判る差異があります。

小生が興味を持ったのは最もよく使われた(日本最多発行枚数)普通郵便用の赤い色をした3銭切手ですが、中学生の小遣いで買える値段で手に入りました。

「趣味の切手展」に出したのは、以下の説明で高嶺の花の「青島軍事」以外の殆どを集めて差異を説明した物ですが、あまりにも地味すぎて一中の「郵便友の会展」では話題にもなりませんでした。

差異としては①用紙②印刷機の違い(平台か輪転機か)③すかしの有無、種類④目打ち(切り離し用に明けられた小さな穴)、⑤加刷等ポイントが多数有ります。

加刷をもう少し詳しく説明しますと、元の切手に後から文字や図案を追加印刷したもので、次の三種類があります。

I. 在外郵便局用

現地とのレート差益目当てで内地へ転売されぬよう「支那」、「朝鮮」と印刷。

II. 軍事郵便用

戦地の出征兵が故郷に便りできるようにと、「軍事」と印刷して無料で配った、中には「青島軍事」切手のように本物なら何百万円もするものも。

III. 記念切手用

大正八年の飛行郵便試行記念として飛行機の図案を印刷。
以上